



つどいの樹

第8号

～ 学ぶ会だより～

2022年6月1日発行



(戸倉しろやまテラス展示資料より)



戦禍 をくぐり抜けた「青い目の人形」

戸倉小学校(東京・あきる野市)にあった「青い目の人形」は、アメリカの子どもたちから日本の子どもたちに送られた12,739体の「友情の人形」の中の1体である。1927(昭和2)年7月12日、人形を迎え、歓迎式典が村を挙げて行われた。子どもたちは、「人形使節」として大切にした。

14年後、アメリカとの戦争が始まった。戦時色が進む中で文部省の役人が人形処分を促し、近隣の学校では、全校生徒の前で火あぶりにしたり、生徒に踏みつけさせて壊したりした。

戸倉小学校では、人形を迎えにも行った堀内校長が「友好の証」「万物みな命あり」と考え、隠したのではないかと推測されている。1989年、目がなく足が折れボロボロになった姿で見つかり、修復され、シャロン(平和)と名付けられた。「戸倉小の宝物」と大切にされてきたが、2013年閉校となり、現在は戸倉しろやまテラスに展示されている。戦禍をくぐり抜けた「青い目の人形」は、時代に流されなかった勇気を可視化している。

(写真・文: 不破百代)



パンデミックの中の戦争

山田 麗子（「学ぶ会」副代表）

世界中を席卷した新型コロナウイルス感染症。ウクライナでは、500 万人以上が感染し 10 万人以上が亡くなりました（2022 年 4 月）。学校も長く閉鎖されました。再開した学校では、子どもたちに笑顔が戻ったことでしょう。しかし 2 月、ロシアが侵攻を開始しました。学校にも爆弾が降り注ぎ、ウクライナの子どもの半数が国内外へ避難しています。

人類共通の敵はウィルスだったはずでした。国際社会が団結して感染症に立ち向かうべき時に、ウクライナへの侵攻が起きたのです。二度の世界大戦を経て、世界はまがりなりにも国際秩序をつくってきたという思い込みは崩れ去りました。

学び舎教科書は、近代・現代の戦争について、8 章～10 章の多くのページで叙述しています。戦争に至る経過を縦糸に、戦火の中の人びとの姿を横糸にして戦争の実相を織りなしました。戦争と平和について、子どもたちが自分で考えてほしいと願っています。やがて世代は交代していきます。私たちは、未来への希望を、子どもたちの学ぶ力に託すしかないのです。一方で、安全な環境で子どもたちに学習を保障することが大人の責任であることは言うまでもありません。パンデミックの中で起こされた戦争に、考え込む日が続いています。

風のいろ	パンデミックの中の戦争	山田 麗子 . . . 2
今・学校で・教室で	性の連続体の中の私に気づく	日達 綾 . . . 3
交流の広場	今こそ戦後史を学ばなきゃ	小川 碧 . . . 4
大学のキャンパスから	学生の授業づくりが始まりました	山本 政俊 . . . 5
歴史の窓	中世の「下人」という人々——彼らの小屋について	保立 道久 . . . 6
授業づくりの土おこし	モノから学ぶ歴史⑥	
	8000 年の歴史を持つパン文化	瀬戸口信一 . . . 7
ようこそ教科書の舞台裏へ	アジア太平洋戦争への思い その 5	
	遺品の訴えが聞こえます—シンガポールの「大検証」の真相—	高嶋 道 . . . 8
学びを深める		
	第 8 回 私はどういう社会に生きたい（住きたい）か？	菅間 正道 . . . 9
随想	連載⑧ 沖縄の声を運んで下さい	黒田 貴子 . . . 10
読者の声		. . . 11
学ぶ会からのお知らせ		. . . 12

性の連続体の中の私に気づく

日達 綾（神奈川県立高校）

わくわくの学級びらき

トランスジェンダーの生徒の担任になった。居づらさを感じるクラスは嫌だなと思った。母子・父子家庭、施設から通う、里親や親戚に育てられている子もいる。ともすれば頼みもしないのに誕生日に両親に高価な財布をもらったという生徒も。突飛な行動が目立ついじめられそうな子もいた。

「男女」に分けられた性や例えば「父と母、子どもは2人。稼いでくるのは父で家庭内の仕事は母。」というような「これが普通、これが幸せ」という社会的につくられた基準で自身をはかり、違うことで苦しまないで欲しい。性も家族も多様であることは当たり前。「多様であることを強み」にする逞しい子たちに育って欲しい。

「性の多様性とよりよい人間関係のあり方を考える」オンライン全校講演会

現在、性自認（心の性）、性表現（自分をどんな性別として表現するか）、性（的）指向（どのような性別の人を好きになるか）に違和感を感じている人は7%とも13%ともいわれている。40人学級では、4人くらい。「自分がトランスジェンダーであることを、クラス全体にカミングアウトしたい。」と相談を受けた担任から学校全体で学ぶ機会を設けて欲しいと提案があった。一橋大学等非常勤講師、“人間と性”教育研究協議会（性教協）代表幹事の水野哲夫さんを招き講演会を企画、次のようにすすめて頂いた。

黒板に写したスライドと手元のプリントを見ながらクイズを10問。子どもたちの日常の当たり前に疑問を持たせる。そして「24の性に関することがら」を5つのグループに分ける。あれれ？性は男女2つだと思っていたけれど、性別は単純に男女だけではない！でも身体は男女に分かれてるでしょ。いえいえ「性分化疾患」（DSD）と診断される人もいます。性染色体や性腺、性器が非典型的な状態で生まれることもあるのです。さらに性自認、性表現、性（的）指向性も一人ひとり違い、どれも自然なありかたの

1つ。

インド最高裁は「男性・女性」の他に「第3の性」を認めた。（2013年4月6日判決）。オーストラリアではパスポートに



ウミウシは雄雌同体。クマノミは成長などで性転換。

「X」という第三の性別を記入できるようになった（2013年7月）。性別は「社会的につくられてきたもの」（社会的構築物）と捉える方向にある。すべての人間のセクシュアリティ（性のあり方）をより広く表す言葉として、SOGI（Sexual Orientation、Gender Identity＝性的指向と性自認）も使われている。LGBT（+I、Qなど）という言葉が「（そのような属性をもつ）人」を表しているのに対して、SOGIという言葉はすべての人のセクシュアリティを表現している。私たちも、性の連続体の中の1人である。

今私が考えていること

「男だから～、女だから～」というジェンダー規範に縛られていないだろうか。社会的につくられたものにあてはまらないと自分はおかしい？と悩んだり、不幸せだと思っていないだろうか。自分たちの常識に当てはまらない人たちを私たちは差別していないだろうか。

「席替えをした新しい班に男の子しかいない」とぼやいていた女の子に「性は多様だからね（社会的につくられた性にとらわれず新しい人間関係をつくろうよ）」と声をかけた。「LGBTの彼らと私」ではなく、自身も性の連続体、多様性の中にいる1人と気づかせてくれた水野さんに感謝。性を含め、多様な在り方を認め合い、尊重する社会を子どもたちとつくりたい。



今こそ戦後史を学ばなきゃ

目からウロコの歴史教科書カフェ 小川 碧

カフェは、2020年11月から戦後史に入り、16回やった。感想は、「戦後史こそ学ばなきゃ」という事だった。「戦後史を学べば、現在の日本の状況が分かり、生きる指針が得られるから」「外国の人々と対等に話し合えるから」だ。主な例会の様子を列举してみよう。

・もう戦争はしない—日本国憲法の誕生—

日本国憲法はGHQから押しつけられたという意見があるので、当時の「国会論議の全過程」を読んできた。結果、日本人の手による「憲法研究会」の案をGHQが採り入れた事が分かった。9条と軍隊の不保持については、再び日本が戦争を起こさないように4ヶ月も論議したと知った。が、新制中学生に教えた「あたらしい憲法の話」では、日本の加害の事実が欠落していると分かった。笠木透の「あの日の授業」のCDで教師の熱意を感じた。

・走れ、ぞう列車—戦後の子どもと教育—

愛知に居た人から、名古屋の東山動物園の関係者取材した人の話が聞けた。子どもを主権者として育てようとした教育に感動した。絵本「折り鶴の旅」を映写し、広島佐々木禎子の同窓生が街頭募金をして「原爆の子」の像をつくった事、米国にも像が出来たと知り、当時のままの教育が続けられていたらと思った。「ぞう列車は走る」のCDを聴いた。

・南北に引き裂かれる—朝鮮戦争と冷戦—

今まで「朝鮮戦争のおかげで日本の経済が復興した」と教えられてきた。が、朝鮮人の立場に立つと、解放されて5年目に、再び戦争が起こり、南北に分断された悲しさ悔しさを思い知った。朝鮮戦争が、米国の対日政策の分岐点であった。が、関西では吹田事件等戦争反対の大運動があった事も知った。

・インドも中国も来なかった—日本の独立—

この単元が一番わかりにくく、カフェのイメージが作れなかった。日本は戦争で被害を与えた国から祝福されて独立したのではなかった。実際は、米国が日本を独立させたと見せかけて、サンフランシスコ条約で、事実上の従属国にしているからだ。条約を読み解くことで、現在の日本の状況が見えてきた。

・ゴジラの怒り、サダコの願い—原水禁運動—

この回からゲストティーチャーに来てもらった。梶本修史氏（兵庫原水協）から、芦屋の「あすなろ友の会」のセピア色の署名用紙と、木の募金箱を見せていただいた時は、杉並区と同じ頃の歴史の重みに感動した。青年たちも初めて知った被爆の酷さに「原水禁大会に行ってみよう」と発言。私たちが励まされた。

・国会を包囲する人波—日米安保条約の改定—

安保闘争の時、実際に東京へ行った阿波角さん（元西宮市職員組合）から国会周辺のデモの話聞き、戦後の大国民運動の雰囲気を知った。安保と三井三池闘争支援と職場の要求を結びつけた組合運動の変化も教えてもらった。参加者もそれぞれの安保を語り合った。

・豊かさの代償—高度経済成長—

西宮の甲子園浜の埋立て反対運動をした白川さんと国道43号線の道路公害訴訟をされた滝口さんに来ていただき、西宮の工業都市化を止め、今の環境都市にしたのは、先人の努力、特に、女性のパワーだったと感動した。

・第三世界と東西陣営—1960年代の世界—

アレン・ネルソンさんの通訳を10年勤められた平塚さん夫妻と、神戸港でベトナム戦争反対闘争をした福田さん（元全国港湾）に来ていただいた。ビデオ「9条を抱きしめて」を観た後、運動が非核神戸方式と9条の国づくりに貢献したと分かった。

未来を生きる子どもたちに、きちんと戦後史を伝えたい。



大学の キャンパス から

学生の授業づくりが始まりました

山本 政俊（札幌学院大学教授）



「へえ～」がいっぱいだから楽しい

「授業力」をつけるには「ともに学ぶ人間の歴史」です。中学社会の教員免許取得をめざしている学生さんたちの取り組みを見ていて、確信しています。この教科書は、本文にゴシックがないので、何を教えたのかをより明瞭にすることが求められます。出会ったことのない図版が多く、既習事項の再点検が迫られます。資料の読み取りをするための発問力が鍛えられます。そして、図版だけで授業をすることが可能です。

2021 年度の後期、5 人の学生に 2 時間ずつ、学生を生徒役にした模擬授業を実施しました。授業単元は学生の希望を尊重しています。教材化された単元は「かわる気候、めぐる季節—縄文時代—」「倭の女王・卑弥呼—邪馬台国—」「蘇我氏と二人の皇子—飛鳥時代—」「東国に幕府をつくる—鎌倉幕府—」「村に学校ができた—学制と徴兵令—」「632 日、世界一周の旅—文明開化—」「世界中が不景気だ—世界恐慌と経済政策—」「日本と清が朝鮮で—日清戦争—」「東南アジアの日本軍—アジア太平洋戦争—」「第三世界と東西陣営—1960 年代の世界—」（タイトルは旧版）です。

東南アジアへ侵攻したのはなぜ？

この中から「東南アジアの日本軍—アジア太平洋戦争—」の授業を紹介します。授業は大日本帝国郵便の 10 銭切手を提示し、発問で読み取るところから始まりました。「これは何か」「書いてあることから何がわかるか」（中学生には右から左へ読むことを指導したうえで）10 銭切手であること、大日本帝国郵便が発行したこと、天皇家の菊の紋章があること、日本列島と大陸、東南アジアの地図が描かれていること、ヤシの木が描かれていることなどが確認されました。

「この切手が発行されていた頃、日本は東南アジ

アに進出していたのです。大東亜共栄圏の建設を主張しました」（「大東亜共栄圏」と板書）「東南アジアは当時欧米の植民地でした。日本は欧米諸国の植民地支配から東南アジアを解放してあげるよ。東南アジアの人たち、日本と共生しようと呼びかけたのです」PPT スライドでどこの国がどこの国に植民地支配されていたかを確認します。（「日本はなぜ東南アジアへ進出しようとしたのだろう」と板書）

ここで授業者は「戦争をする上で必要なモノって何だろう」と問い、ノートに書かせてから発表させました。武器、食糧、救護するもの、薬、燃料などが出され、武器は鉄でできていること、飛行機のタイヤはゴム、燃料は石油であること。東南アジアはこれらの資源が豊富なことを地図帳で確認しました。（日本は長引く「中国との戦争を続けるために石油など戦争に必要な資源を獲得する」と板書）。続けて（「1940 年日独伊三国同盟（枢軸国）」と板書）この軍事同盟の締結や連合国の援蒋ルート遮断のための南部仏印進駐が決定的な対立を生み開戦に至ったことを説明し、「1941 年 12 月 8 日、真珠湾の奇襲でアジア太平洋戦争は始まりました。ですが、それより約 1 時間早くイギリスの植民地で要塞のあったシンガポールをめざすマレー半島上陸作戦が始まっていました」。

大東亜共栄圏建設の真実を問う

授業者は「日本は東南アジアの人々にどんなことをしたでしょうか」と問い、教科書の「ビルマの鉄道工事で働かされる労務者」の写真に注目させます。「この人たち、何か履いている？」「何を運んでいるのだろう」泰緬鉄道の写真を提示（PPT）「どんな場所かわかる？」「崖」「こんなところを素足で歩いて、重い角材担がされて暑い中を働かされた。この下何かわかる？」「川？」「高さは？」「落下したらどうなるかな？」「だから死の鉄道って呼ばれているんだ」教科書を読ませ、「大東亜共栄圏、みんなはどう思うかな？」と問い、発表させました。



中世の「下人」という人々——彼らの小屋について

保立 道久（コアアドバイザー・東京大学名誉教授）

学び舎の教科書の「荘園の人々」という項目には「荘官や有力な農民の所には、下人がいました。荘官などに長く仕えていた人や、借りた稲が返せなくなったり、生活できなくなったりして逃げてきた人たちです。下人は小屋に住み、命じられるままに働かされたりしました。田畠と一緒に、ゆずりわたされることもありました」（60 頁）とあります。

歴史教育運動の理想

この記述の史料的根拠について尋ねられたことがあります。歴史教科書は一行一行について（推定を含め）史料根拠が必要なもので、それは執筆者・教師が集団で確認し、蓄積していくべきものだと思います。それがデータベース化され、市民にも公開されて徐々に中身が充実していくのが理想でしょう。歴史教育運動がそういう方向に進むのを望みます。歴史は結局、史料とその読みです。テレビなどに歴史文化をまかせてはけません。

ところで、この疑問に答えるのはなかなか難しいことです。たとえば「下人は小屋に住み」というのは中世史の研究者の共通認識ですが、小屋住み下人についての専論はありません。民衆史研究が不足しているところですが、文献史料で使えるのは、1262年の関東下知状にでる所従しよじゆうの史料でしょうか（『鎌倉遺文』12 巻 167 頁）。その一節に「明鑑の所従上光法師、小屋を彼田に造り、居住せしむ」とあります。ある荘園の地頭の僧侶が所従に田地をあてがって所従がそこに小屋を構えたという史料です。所従とは下人と重なるものですが、簡単に調べてみた限りでは、文字通り「下人が小屋に住んでいる」という史料は（鎌倉時代では）ありませんでした。イメージをつかむのはなかなか難しいことです。

絵に描かれた下人小屋

こういう時にいいのは絵画資料です。右図の『法然上人絵伝』（巻一）には領主だった法然の父の家の左手に下人小屋がみえます（図版の都合で見えま

せんが、反対側の右手奥にもあります。図書館でみてみてください）。この記述がある学び舎教科書には『粉河寺縁起』の百姓が公事物を領主に貢納する庭の場面がでています。絵巻には門の外にも畏怖の姿で百姓が公事物をもってやってくる群像があります（拙著『中世の愛と従属』で分析しました）。『法然上人絵伝』を使えば、こういう領主邸宅の近辺には子飼いの下人がいたと説明できます。また『男衾三郎絵詞』の詞書には、下人身分に落とされた娘が「門外なる賤の伏屋」に押し籠められたとあります。下人小屋は門番小屋のように門前にもあるのです（なおこれについては拙著『中世の女の一生』（洋泉社）に要点を書いています。ここで私は『男衾三郎絵詞』を下人女性の労働を示すものとしても使用しています）。

なお教材にはよく使われていた『今昔物語集』の「芋がゆ」の話にでる下人は、人呼びの丘から声の届く所にいる下人（「声の及ぶ限りの下人」と、届かないところにいる下人（外居の下人、「のきたる従者」）に区別できます。下人についてはこれを基準にして教材を系統化しておく必要があります。こういう下人教材については「教材としての社会史」という文章を書いたことがありますので御参照ください（『前近代の新しい学び方』歴史教育者協議会編）。この本は絶版のようですので、私のブログ「保立道久の研究日記」の「歴史教育のために」の項目にあげておきました。また下人の発生因、労働形態、強制形態については、丁度まとまった記述としては、拙著『物語の中世』文庫本 196 頁から 199 頁を御参照ください。



⑥ 8000 年の歴史を持つパン文化

瀬戸口 信一（元公立中学校教員）



欧米では、パン食は生存に欠かせない。スープの語源は、「ぬれたパン」。レディの語源は、「パンをこねる人」。ブレッド&バターは、「家計」という意味だ。そしてパンは「イエスの体」を意味し、食事前にはパンの前で十字を切る。

DVD『人間は何を食べてきたか？一粒の小麦の華麗な変身～パン～』（NHK編）を見ると欧米人の暮らしとパン文化が一体となっていることがわかる。文明の起源は、穀物（主に小麦）だ。パン食について学ぶことは、人類史を学ぶ基礎ともなる。



◆パンの生誕地は、小麦の原産地

パンは、いつどのあたりで生まれたのか？欧米人の主食というイメージがあるせいか、子どもたちは「ヨーロッパ」や「アメリカ」を思い浮かべる。しかし、パン生誕の地はメソポタミア地方（現在のイラク）という意外な答えに子どもたちは「なぜ？」と考える。

そこで、小麦を配布。子どもたちはこの分厚い皮に覆われた穀物をかじってみたり、机の上で叩いてみたり、その硬さに驚く。野生小麦に近い古代小麦だというと、「何でこんなに硬い殻に被われているの？」と考える。ここは乾燥地帯である、そこに自生している野生小麦は、過酷な気候や土壌でもしっかり子孫を残せるよう硬い殻で覆われている事に一同納得する。

◆小麦は粉の文化！

次に、子どもたちは「こんなに硬い小麦を古代の人たちはどうやって食べたの？」と疑問を持ち始める。「煮る」「焼く」などの答えがでてくるが、小麦は粉にする以外食べられない。「ではどうやって粉にするの？」とさらに追求が始まる。

ここで、教卓に石皿と石棒を用意。あの硬い小麦が粉に華麗に変身していく姿は感動ものだ。ついでに、後の時代に発明された「石臼」での製粉作業もやらせてみたい。中には定規などを使って小麦を砕き始める子どももいる。小さく砕くとそこから真っ白な粉ができる。「小麦粉だ！」と歓声があがる。

◆人類最初の加工食品

粉にした小麦をどうやって食べたの？と問う。「パン」「パスタ」「ピザ」などと自由な発言の後、メソポタミアの古代人は、小麦粉を煮たお粥みたいなものを食べていたようだ。そしてある時、焼けた石の上に粥をこぼし、こんがり焼けた小麦を食べたことがパンの始まりとされていると説明。人類最初のパンは、アジアや中近東でみられるチャパティやナンとして今に残っている。人類とパンの出会いは古く約8000年前にまで遡る。パンは、人類最初の加工食品だったのだ。

◆ふっくらパン（発酵パン）の誕生！

それでは僕らが現在食べているふっくらパン（発酵パン）は、いつどこで誕生したのだろうか？ここで、ローマ帝国ボンペイから出土したパン屋とその道具の写真を見せる。「石臼」「石窯」「パン」「パン屋」など…。今から2000年前のローマ時代に今と同じ製法でふっくらパンが作られていた。

ところでパンはなぜ膨らむの？「イースト菌」（酵母）を利用したパンづくりは、実は古代エジプトが始まりだ。あるとき、焼き上げる前のパン生地を放っておいたら熱い気候で自然に発酵し、ふっくらパンが誕生したという。



◆ヨーロッパから世界に広がるパン文化

こうした発酵パンはどうやって世界にひろがったのだろうか？ローマ帝国はヨーロッパ各地を征服していく際、パン食文化を伝えた。そこからアジア・アフリカにもパン文化は伝えられ、世界中に広がった。



アジア太平洋戦争への思い その5

遺品からの訴えを聴いて下さい —シンガポールの「大検証」の真相—

高嶋 道（元中学高校教員）

語り継がれている2月15日

シンガポールの人びとにとって2月15日は「忘れられない日」です。今から80年前、1942年のこの日から、日本軍の支配—Dark Years—が始まったのです。（教科書第9章8をご参照下さい）

シンガポールを「昭南島」と改名した日本軍は、18日、華僑（中国系の人）の18歳から50歳までの男性に「水と食糧を持参して21日正午までに指定した7カ所に集合せよ」と布告。そのねらいは、1937年から続く日中戦争で、中国軍を支援している抗日組織やメンバーを見つけて処分することでした。

3日間に及んだ「大検証」で、約20万人はどのような検問をされたのでしょうか。華僑義勇軍兵士と抗日分子の摘発のため、日本軍は通訳として雇った華僑に覆面をさせて取り調べましたが、ことばもよく通じず、杜撰な選別でした。医者、教員、財産家、銀行員、居住が5年以内の者などが疑われ、眼鏡をかけて色白ならば、インテリであり、「抗日であるに違いない」とされました。「良民」とされた者は、○検の証明用紙を渡されたり、衣服や顔や腕にスタンプを押されたりして帰宅を許されました。

一方、疑われた人たちの多くは、トラックに乗せられ、窪地や海岸に運ばれました。日本軍は、50人を一組にして長い穴を掘らせ、手足を縛り、銃殺。船で運ばれ海中に突き落とされた人たちもありました。日本軍は南京大虐殺が国際的な非難をあげたので、遺体を隠す方法にしたと言われています。

誰でも知っている「大検証」～住民大虐殺～

大虐殺の真相は、辛うじて生き残った人びとの証言が記録され、国立公文書館や国立博物館などに残されています。「肅正」として小学校や中学校の教科書にも大きく扱われているので、現地では誰もが知っている歴然とした事実です。日本人はどれほど知っているでしょうか。

この大虐殺の犠牲者数はわかっていません。戦後の戦犯裁判で問われた日本側は、多くても5,000人としています。シンガポール側は、数万人と主張しています。「大検証」は、戦闘終了後の残虐事件で、

人数や名前の記録もなく、裁判もせずに非戦闘員が大虐殺された事件で、明らかに国際法違反です。さすがに『日本憲兵正史』においても「遺憾な事件であり、大東亜戦争史上一大汚点となった」と記述するしかなかったようです。

1961年工事現場から 大量の人骨が発掘される

おびただしい数の人骨は「大検証」での犠牲者と推定されました。中華総商会は「日本占領時期死難人民遺骸善後委員会」を発足させ、シンガポール島内各地の遺骨調査に取組みました。次々と人骨と遺品（聴診器、バックル、時計、眼鏡、櫛、指輪、イヤリング、ロザリオ、幼児の脚輪、万年筆、鉛筆、など）が大量に発掘され、大虐殺の怒りと悲しみが甦りました。1963年8月には、10万人の大集会が開かれ、日本に賠償要求をしました。

日本は、サンフランシスコ条約を理由にして対応しませんでした。1967年9月、ようやくシンガポールとマレーシアとに経済援助協定を結びましたが、賠償要求には応じませんでした。この間、中華総商会による追悼碑建設計画が進みました。建築費は半分以上が市民からの寄付で、不足分をシンガポール政府が負担し、1967年2月15日「日本占領時期死難人民記念碑」が完成しました。高さ68mの白亜の塔の下に、発掘された遺骨が収められています。

いわれなく殺された人びとの声を聴き、追悼するために、私はたびたびここを訪れています。



孫文記念館にて1987年撮影



子ども・若者を主権者／市民に育てよう―「知憲」「学憲」のススメ

第8回 私はどういう社会に生きたい（住みたい）か？

菅間 正道 （自由の森学園高校校長）

国家・社会を4つのタイプに分ける

現在、私が担当する唯一の授業、高校3年生対象の選択講座「政治・経済演習」。ここ数年の最終回は、およそ以下のようななかみでおこなっている。

前半は、『学校が教えないほんとうの政治の話』斎藤美奈子（ちくまプリマー新書、2016年）を長く抜粋したプリントを読み、言葉の質問などを受ける。

後半は、前半をうけたかたちで、黒板をチョークで大きな4象限に分け――タテ軸を上「強い国家（国権重視）」、下「弱い国家（人権重視）」とし、ヨコ軸を右に「自由・競争重視（新自由主義）」とし、左に「平等・再分配重視（福祉国家主義）」と区切る――生徒各人が大きめポストイットを、「どういう世界に生き（住き）たいか」という問いに対して、自分の志向／指向を各象限に自分の名前を書いて（裏側には簡単な理由も書いて）貼りだし明らかにする。

あなたはどちらを選ぶか

斎藤の前掲書は、なるべくわかりやすい言葉で（2項対立的な書き方は気になるが）、若者たちに現代政治の課題と布置連関を示そうというものである。ものすごく端折って彼女の言葉をつないでみよう。「まず、あなたが属している場所から考えてみましょう。あなたはお金持ち？ それとも貧乏人？（中略）もし、あなたが労働者であるならば、あるいは将来、労働者になりそうなら、『私は労働者階級だ』とはっきり自覚したほうがいいのです。」

その後、マルクス、階級闘争、東西冷戦、ケインズ経済学、21世紀は新自由主義 VS 社会民主主義などの言葉が続き、こう問いかける。「ここで質問です。自由な競争のできる新自由主義的政策と、弱者にやさしい社民主義的政策とあなたはどちらを支持しますか」「自由と平等の、どちらを重んじるべきか。貧富の差は仕方ないのか、できるだけ解消すべきなの

か。強者が活動しやすい社会と、弱者にやさしい社会とどちらが好ましいか」。

「弱い国家（人権重視）」×「平等・再分配重視（福祉国家主義）」

紙幅の関係上、生徒たちの声を丁寧に紹介することはできない。前半部の斎藤の本の読了もどこまで一人ひとりが理解できているかは心もとない部分もある。ただ、細かな知識は措いておいたとして、1年間「政治・経済」を学んできて、最後は大きな話を、現実の社会をみすえた「未来の社会の話」をしたかったのである。

ちなみに今年度最後の授業は、1月27日におこなわれた。例年、数として、一番多くポストイットが貼られるのが、黒板左下の象限である。それは今回も変わらなかった。また、例年、一人か二人かは存在する＜国権重視＞で＜新自由主義的＞な象限（黒板右上）は今回は一人もいなかった。

その左下象限を選んだ生徒のコメントを紹介する。「何か失敗しても、社会の歯車から大きく逸脱することがないように、福祉はしっかりしてほしい。そして、それを支えるのは、やはり公的な部門、国家がいいかなと思う。人命尊重はやはり大きな組織に託すのがいい。ただ、その国家が暴走しないように、弱者の立場にたった政策や制度をうちだすようにしてほしいと思うが、それには自分たちも国家をしっかり監視する必要があるだろう」。

.....

なお、最後になるが、読者にひとことご挨拶を申し上げたい。私のこの連載「子ども／若者を主権者に育てよう―「知憲」「学憲」のススメ」も今回が最後となる。2年にもわたる長い間、お読みいただき本当にありがとうございました。

連載⑧ 沖縄の声を運んで下さい

黒田 貴子（中学校講師）

「先生方をお願いします。沖縄の声を生徒に運んで下さい」。歴史教育者協議会の研究集会で、高校1年生の懸命な声がおとなたちの胸を打ちました。糸満市の上原一路（ひろ）さんは、小学生の時、工事が始まる前にと両親が連れて行ってくれた辺野古の大浦湾の浜辺でたくさんの美しい貝殻に出会います。その貝殻に夢中になった一路さんは辺野古新基地建設工事によって、大浦湾の自然が壊されていることを目の当たりにして、沖縄の歴史に向き合い始めます。

遺骨の混じった南部の土砂

一路さんが出会った「ガマフヤー」（ガマを掘る人）代表の具志堅隆松さん。具志堅さんは、40年も前から、沖縄戦で亡くなった方たちの遺骨を収集し、遺族に帰す活動をしています。あるとき、厚生労働省の雇用創出事業として、ホームレスの方たちが、遺骨収集の作業に参加しました。まじめにやるのか？という偏見をよそに、この方たちの遺骨に対する心を込めた扱い方に具志堅さんは感じ入ります。「自分は、沖縄に来て死のうと思っていたんです。でも、生きたいのに生きられなかった方たちの遺骨を見て、生きていこうと思いました」と何人もの方が語ったと言います。

沖縄戦最大の激戦地であった南部には、いまもたくさんの遺骨が残されていて、砲弾に砕かれた遺骨は石と見分けが付きにくいそうです。そのような遺骨の混じった土砂を、辺野古新基地の埋め立てに使う計画に、具志堅さんはハンストまでして反対しています。

沖縄の「戦後」

沖縄の苦難の歴史は、沖縄戦の後も続きます。人びとを民間人収容所に入れて、米軍は集落を基地にしました。解放されて帰って来たふるさととは、家の跡もお墓もフェンスの中。サンフランシスコ平和条約で日本が独立した後も沖縄は米軍の統治下に置か

れたままでした。宮森小学校米軍機墜落事件、由美子ちゃん事件、隆子ちゃん事件、国場君事件……米軍によるあまたの事件・犯罪が沖縄の人たちを襲います。

日本国憲法のある本土に対する沖縄の憧れは、裏切られ続けてきました。本土で米軍基地拡張反対闘争が起きて撤去された基地と米兵は沖縄に移されました。本土で暮らす私も、そのことに気づくのは後のことだったと恥ずかしく思っています。1995年に起きた少女暴行事件をはじめ、米軍による犯罪は続いています。コロナ感染が米兵から広がったことや、アメリカ本土では規制されている人体に有害な洗剤（PFOS、PFOA）が基地から沖縄の川や地下水に漏れているということ。県民投票などで示された民意を日本政府は一顧だにしません。

南西諸島が最前線に

そして、いま。緑豊かな南西諸島に自衛隊の基地がつくられ、再び沖縄は最前線に置かれています。宮古島を訪ねたとき、島の方たちの聖域である御嶽（ウタキ）までが基地に取り込まれ、緑を削り取られた無残な姿となっていることに衝撃を受けました。この島々が戦場となったら、住民は、どこに逃げられるのでしょうか。

沖縄復帰 50 年のいまこそ、私たちは沖縄のことをわが事としてとらえていかなければ、と強く思うのです。



きれいな貝殻と奥に見える工事の景色です。写真提供：上原一路



読者の声

★ 教科書♥届きました。

早速読んでいます。

とても読みやすく楽しく面白いです。こんなに興味の湧く教科書は初めてです。

挿絵や挿図、挿写真、データも含めて丁寧に読んで、まずは私が歴史の専門家になりますね。

カンパした値打ちは十分にありました（^v^）

ドイツの娘の長女は 10 歳になりました。彼女に一冊プレゼントし、日本の歴史を学ばせたいと思います。丁寧なルビがあるので大変ありがたいです。

当地で定期的にある邦人の交流や日本語の勉強会に彼女は参加していますので、その場の教科書に採用するように言っておきますね。

また追加で教科書を注文するかも知れません。その節は宜しく。

（古樫 滋）

★ 学び舎の編集者の皆さん、初めてお便りをいたします。御社のことを池上彰さんと増田ユリヤさんの対談形式でつくられたポプラ新書発行の『ニュースがわかる高校世界史』という本で知り、そこで紹介された『ともに学ぶ人間の歴史』というちょっと変わったタイトルの教科書に大へん興味をもち、ペンをとった次第です。

コロナ禍とそのドサクサまみれで起きたウクライナ侵攻の影響で、より身近にニュースと接するようになりましたが、そもそも何故このような事態を招いたのか、その背景を基礎から知りたくて、もう一度イチから学び直したいという気持ちが湧いてきました。

そこで、中学生には無償で配布される『ともに学ぶ人間の歴史』を購入して、テレビの手元に置いて学び、十二・三歳頃の私に戻り、新たな教養を得たいと考えております。

今、この教科書の見本を図書館から借りて、読んでいます。こんなに面白く読み応えのある歴史教科書と 39 年前に出会いたかったです。

（善岡雄一）

★ 『ともに学ぶ人間の歴史』を読んで

「学ぶ会」に入会しているのに、その集大成である現物の教科書をまだ目にしていない。そこで一念発起手に入れようと思い立った。近くの蔦屋書店に電話で注文するが、どうも埒があかない。駅近のくまざわ書店に問い合わせると、教科書は「教科書取扱店」でないと購入できないと教えてもらった。老舗の地元取扱店は数年前に店じまい。不本意ながらアマゾンで入手した。

「教科書的」を三省堂の『新明解国語辞典』では、「取り上げた事柄に対して、まんべんなくすべてに行き渡ってはいるが、説明が紋切り型にとどまっていて、読み手に強く訴えかける点に欠ける様子だ」と、的確に？表現している。

さて、実際に読んでみる。江戸時代に何故中国は昆布を輸入？「来ちよる」の意味は？チャップリンの「独裁者」は戦前の日本で上映できたの？アンネ＝フランクとオードリー＝ヘップバーンは幼馴染？密航船で沖縄へ運んだものは？・・・なるほど、そうだったのかと、うなずきながら読み進む。「説明が紋切り型」でなく、「読み手に強く訴えかけている」事に気づく。それもそのはず、教壇で先生方が実際に使っているネタを持ち寄って作った教科書だからだ。逆に違和感は、太字もないし、何が重要なのか教えてくれない。つまり、歴史的出来事について、重要度に差別はない、何が重要なのかは、自分で考えなさい、という立場だからだろう。この教科書は内容豊かで様々な工夫がなされ、読み物としても面白い。

教科書について、もう一つ。この 3 月に来年度から高校生が使う教科書の検定結果が発表された。教科書は執筆者らの独りよがりの説を披露する場ではなく、政府答弁書を踏まえて記述すべきだという意見があるが、これは、現行の教科書検定制度さえ否定して、戦前のような国定教科書に逆戻りすべしという考えのようにもうけとれ、危惧している。

ついでに？小松崎茂画伯（教科書 237 頁の東京大空襲の絵）が自宅（柏市）そばに建てられたアパートから、私の新婚生活は始まった。

（関 弘志）



学ぶ会からのお知らせ



◆2022年の全体会は、9月18日（日）に行います。

学ぶ会の会期は、9月1日から翌年8月31日です。今年の9月には、第13期を迎えます。年に一度の全体会を9月18日にZoom（オンライン）で行います。午前の全体会（会員が対象）では、事業計画（第12期総括・第13期方針）をお示しし、その後各地で進められている市民の学習会の報告と交流をします。午後は、「学び舎教科書研究セミナー」として、学び舎教科書の採択校から授業実践報告をしていただく予定です。実際に教室で、子どもたちがどのように学んでいるのか、この教科書をどのように学習に生かしたら良いのか、皆さんで語り合いたいと思います。ぜひ今から予定に入れておいてください。詳しくは、別紙チラシをご覧ください。

■童話館「ぶっくらぶ通信」で学び舎教科書が紹介されました。

子どもの本の専門書店童話館（長崎市）の「ぶっくらぶ通信」が「編集部ニュース」でとりあげています。「10才の孫が、ドイツとユダヤの歴史に興味があるようで、なぜユダヤ人を迫害したのか、その理由を知りたいと思っています。おすすめの本はないでしょうか」という相談に対し、「小学校高学年以上なら『ともに学ぶ人間の歴史』（学び舎）もあわせて読むことをお勧め」する、「この教科書では「世界中が不景気だ」という項目の次に「ヒトラーの独裁が始まる」があり、不安定な社会情勢のさなか、不安や不満がますます募っていく集団がどうなっていくのか、考えを深め、さらに問いが生まれ、また深く考えていくことができる」と答えています。

●歴史学者鹿野政直氏の書評集『本たちが、問いかける』（私家版）に収録されました。

『ともに学ぶ人間の歴史』の書評（初出『歴史学研究』No. 939）が収められています。末尾は、「八・一五になぜこだわるか」（初出「朝日新聞」1990. 8. 15 夕）です。

▲授業ブックレット第12号を7月に発売します。

7月発売



A5判 700 円＋税

『ともに学ぶ人間の歴史』授業ブックレット No.12

- 山本宣治と彼が生きた時代 ●永島 梓
- 牛島満と沖縄戦 ●牛島貞満
- ふりそでの少女
—「最後の」戦争被爆地ナガサキからのメッセージ— ●奥山 忍
- 原発被ばく労働を基底に据えた「原発」問題の授業 ●滝口正樹

ご注文は学び舎へ 電話：042-512-5960 E-mail : manabisha-ek@cap.ocn.ne.jp



一般社団法人

事務所住所

メールアドレス

ホームページ

編集・発行

子どもと学ぶ歴史教科書の会（略称「学ぶ会」）

〒190-0022 東京都立川市錦町3-1-3-605

manabukai@mbm.nifty.com

<http://www.manabisha.com>

一般社団法人「学ぶ会」会報『つどいの樹』編集委員会